

札幌順著「技術者倫理」放送大学教材、日本放送出版協会 2009年9月20日刊を読む

なぜ今、技術者倫理か - 科学技術による行為の拡大と新しい倫理の必要性 -

1. 科学技術の進展が人間社会を大きく変え続けている。激変する科学技術と社会の関係を象徴する歴史的な事例を1つ紹介しよう。読者は「1942年12月2日」という年月日から何を想起するだろうか。
2. この日は人類史上最も重要な分水嶺であると言っても過言ではない。米英の原子爆弾開発計画であるマンハッタン・プロジェクトに参加していたエンリコ・フェルミ(Enrico Fermi、1901-54)たちが、シカゴ大学に設置された秘密研究所で、初めて原子核の連鎖反応をコントロールした日である。この日以前は、たとえ誰かが「人類全体を絶滅させよう」と企てても、そのような計画を実行する物理的手段がなかった。いくら通常の爆弾などを大量に製造したとしても、人類を絶滅させることは不可能だった。ところが、この日に「原子の炎」(原子力)という従来とは桁違いの大きさのエネルギー源を手に入れたことで、人類を絶滅させるという「行為」を可能とする手段を、われわれ人類は持ったのである。
3. このような歴史的な事例は他にも多数ある。紙面の都合で年月日のみの紹介に留めるが、是非、調べてみて欲しい：2000年6月26日、2001年9月11日、2001年11月25日。いずれの日も、100年後の科学史家が、1942年12月2日と同様に重要な日として強調するだろう。
4. 第1章で行った倫理の定義によれば、倫理とは行為の科学である。したがって、「できないこと」に関しては、倫理上の問題はない。あるいは、倫理性を考えること自体、意味のないことかもしれない。しかし、「できること」つまり技術が可能にした「行為」に関しては、それが倫理的であるか否かを検討しなければならない。これまでできなかったことが、科学技術によって可能になった。その可能な行為に関して、それが善いか悪いか、それが正しいかどうか、これを考えなければいけない。つまり、新しい倫理が問われる、そういう時代にわれわれは生きているのである。

P78 ~ 79

[コメント]

科学技術の発展は人類に何をもたらすか。幸福か不幸(人類の滅亡)か。考えたい。

- 2010年3月23日 林明夫記 -